

平成 21 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

○日時：平成 22 年 3 月 24 日（水）14:00～16:15

○場所：多田記念大野有終会館 3 階 大会議室

○議事内容

1. 平成 21 年度の各機関の取り組み状況
2. 平成 22 年度の活動予定
について事務局および関係委員から説明。

主な質疑応答、意見の内容は、以下のとおりである。

1. 森と湖に親しむ旬間行事について
 - ・真名川ダム大噴水ライトアップはほとんどお金はかけずに初めて行い、「きれい」と言っていたが、来場者が少なかった。
 - ・今後も実施したいが、観光資源のひとつとして大野市の行事等との連携を図れないか。
2. 全国植樹祭について
 - ・全国植樹祭以降の県民活動である「緑と花の県民運動プロジェクト」が進められており、来年度以降も続けていきたいので、協力をお願いしたい。
3. 「水源地の森づくり」植樹会について
 - ・小学生達に植樹祭用に育てて貰ったドングリの苗木が余り、学校の先生と相談した結果、子供たちと一緒に植える事にしたが、小学校には苗木が少しずつ余っているはずで今年も行いたいと考えている。
4. 名月観賞と篠笛の調べについて
 - ・湖面に映る満月を見ながら真っ暗なところで笛の演奏会をする非常に幻想的な催しで、九頭竜湖が満水の時に行えたら一番いいもののなかなかそうはならないが、今後も続けたい。
5. 真名川ダムフラッシュ放流について
 - ・今年はずじめてフラッシュ放流を融雪期に実施する。近年は暖冬で融雪期の放流がなく、河川環境のために融雪放流に替わるものになると考えていたが、結果的に今年は豪雪になったので、今年については河川環境への効果はあまり期待できない。しかし、今後も地球温暖化で融雪時の放流が減ると思われ、ダムで貯留した水を放流することで地球温暖化の緩和策になるとも考えられることから、データをとるためには実施したいと考えている。

6. 九頭竜ダム湖のコクチバスについて

- ・九頭竜湖では平成 19 年にはじめてコクチバスが 2 個体見つかり、オオクチバスより寒いところでも適応する外来生物で、今後増加すると在来魚に大きな影響を与える恐れがある。今回コクチバスの産卵床等を駆除したが、6, 7 年の寿命があるので、継続しないと効果がないと考えている。

7. 流木の有効活用について

- ・流木はどのような人が購入するのか？どのような利用ができるのか？
→販売はできないので紅葉まつり等で無償配布しており、家や店で飾るのに毎年取りに来る方もいる。また、おが粉は六呂師で養豚で使ってもらったり、チップはスキー場等で防草に使ってもらっている。

8. 真名川ダムのダム見学について

- ・昨秋初めて旅行社のダムツアーの見学申込みがあり、計 6 回のツアーが大型バスほとんど満杯の状況で人気があった。ただし、昼食も名古屋から積んできた弁当を車内で食べていたようで、大野の市街には全く寄っておらず、今後ぜひこれを大野市街地に寄るようなツアーになるようにしていきたい。
- ・ダム管理所職員がダムの案内をするにあたって学校等公的機関ならともかく旅行社のような営利団体の案内を行うのはどうかとの意見があり、今後観光協会を通じてのボランティアガイドの方との連携等について調整していきたい。

9. 河川情報表示設置板について

- ・ダムの放流情報を提供する目的で設置しているが、平常時にはイベント案内等にも使えないかと考えている。

10. その他

- ・九頭竜湖ではカワウの増加も問題になっている。
- ・板倉付近にホテルがたくさん分布しており、ホテルの名勝にならないかと考えている。
- ・九頭竜ダム湖岸の木が大きくなり、景色が見えなくなっているので、伐採できないか？
→景色のいいところも観光ポイントになるので、具体的な場所を確認して調整したい。

以上